

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 水島 宏一

研究課題		平行棒における「懸垂前振り開脚抜き、伸身かつ水平位で懸垂」の運動経過に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、平行棒の懸垂前振り上がり開脚抜き伸身かつ水平位で懸垂（以下「バブサー」と略す）の運動経過を分析し、その類似技である倒立から伸膝で振り下ろし懸垂前振り上がり開脚抜き倒立（以下「チップルト」と略す）の技術と、異種目である鉄棒の懸垂前振り伸身背面とび越し懸垂（以下「トカチェフ」と略す）の技術の類似点をバイオメカニクスの視点から探り、高難度の技を効果的に習得するための基礎資料を得ることである。 実験は、バブサー、チップルト、トカチェフの3つの技を実施できる被験者3名と、バブサー及びチップルトは実施できるが、トカチェフを実施できない被験者1名に各技を試技してもらい、それをビデオカメラで撮影して角度、軌跡、速度を算出し考察を行った。
	研究の結果	バブサー及びチップルトを軌跡、速度、角度の3項目の結果は以下ようになった。 技が異なっても軌跡、速度、角度の3項目は、ほぼ同じような変位を辿っている。また、被験者が異なってもバブサー及びチップルトの運動経過はほぼ同じような変位を辿っている。 トカチェフに関しても、被験者が異なっても運動経過はほぼ同じような経過を辿っている。 平行棒と鉄棒といった異種目の技であるが、上記に示したように運動経過が類似している。この運動経過の特徴は先行研究において明らかにされていることと同じであった。ただし、ここに示した先行研究は、同一被験者が異なる技を実施した場合の結果であり、本研究で実施した異なる被験者ではないことから、より客観性のある結果であることを示すことができた。
	研究の考察・反省	平行棒のバブサーとチップルト、そして鉄棒のトカチェフは、異種目であるが切り返し技という特徴を有した技であり、類似した運動経過である。つまり、同種目の同系統の技だけでなく、異種目間であっても同系統で類似する技術を有する技であれば、効果的に技を習得するための指標になることが示唆された。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>日本体育学会 日本体育学会第69回大会（徳島県） 平行棒における「懸垂前振り開脚抜き、伸身かつ水平位で懸垂」の運動経過に関する研究 2018年8月24日 徳島大学常三島キャンパス</p>	